

からくり伊賀七と大時計

つくば市谷田部

昔、谷田部藩（現在のつくば市谷田部）に飯塚伊賀七という名主がいました。

江戸時代後期のある昼どき、いきなり太鼓や鐘が鳴り出しました。村人が驚いて音の出所を探ると、それはなんと名主である伊賀七の家だったのです。

さらに屋敷の中をのぞくと、そこには人の背丈よりも高い大時計がありました。この時計台の仕掛けで、針が昼を指すと太鼓でも鐘でもひとりで鳴り出し、人々に時を知らせるのです。

ほかにも、伊賀七の家には様々な仕掛けがありました。例えば、門は誰もいなくても朝の6時に自動で開き、夕方6時には閉まるのです。また、伊賀七の家では、戸を開けると人形が立っていて、尋ね人を見ると座敷へ案内しお茶を出すので、村の人は「お茶汲み人形だ」と驚きました。



この人形、お茶汲みだけでなく、酒屋へ買い物に行くこともでき、店主が酒の量をごまかそうとすると店先から動かないのです。「伊賀七どんは、なんと知恵者か。天狗様とおなじだ」と、村の人だけでなく、この地を治める細川長門守という殿様もたいそう驚きました。

伊賀七の奇抜な発明のうわさはどんどん広まり、いつしか「からくり伊賀七」と呼ばれるようになり、

『谷田部には過ぎたるものが三つある 不動並木に広瀬周度 もひとつくわえて からくり伊賀七』と、人々から讃えられました。

その後も、伊賀七は紆余曲折がありながらも諦めずに次々と発明を続けました。

現在、伊賀七の創作で唯一敷地に残る五角堂は門の右側にあり、中心の高さ約6メートル、一辺およそ4.6メートルの正五角形の建物で、中には打穀機などが据え付けられていたといわれています。

様々な工夫や努力で、生活をもっと便利に、楽しく、より良いものへと探求し続けた伊賀七。あらゆるものが、A-I化という波による過渡期に差し掛かっている今、私たち「ヒト」のことができること、「ヒト」である価値を、改めて見つめ直すことが必要かもしれませんね。

※不動並木：殿様が植えた見事な松並木で、道行く人が休んでいったといわれる。
 ※広瀬周度：蘭字を修めた谷田部藩医で書画の才人
 〈出典元〉茨城県の民話（日本児童文学者協会編）

※谷田部郷土資料館（谷田部交流センター 3階）には伊賀七が発明した和時計の展示もあります。

お出かけの際には、周囲の状況等に十分ご配慮いただけますようお願いいたします。

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <http://www.ibaraki-isuzu.co.jp>

いきいき茨城ゆめ国体 2019
 を応援しております。